志太田中川水系河川整備計画【原案】

概要図　静岡県

河川整備の基本理念

流域や河川で形成されている多様な自然環境や広がりのある豊かな水の景観、大井川との共存を図ってきた流域の暮らしや歴史・文化に配慮しつつ、浸水・氾濫特性や開発要請が強い社会環境を踏まえ、流域の土地利用との調和を図った総合的な治水対策を推進する。

○水害に強い流域と安全な川づくり
○人と自然が共生する川づくり

今までの経緯

第1回流域委員会【平成25年3月12日】
・現地視察
・流域及び河川の現状と課題

第2回流域委員会【平成26年3月27日】
・治水対策

第3回流域委員会【令和2年2月26日】
・津波対策等、河川整備計画【原案】の提示

第4回流域委員会【令和3年3月23日】
・河川整備計画【修正原案】

第5回流域委員会【令和5年11月13日】
・河川整備計画【修正原案】

河川整備計画【素案】

アンケート調査【平成20年5月】
・配布：計706世帯
・有効回答数：432世帯(61.2%)

河川整備計画【原案】

河川整備計画【修正原案】

県民意見募集【令和3年1月12日～2月12日で実施】

河川整備計画【原案】

関係機関意見聴取【令和3年6月15日実施】
関係首長意見聴取【令和3年9月29日実施】

河川整備の目標

整備対象期間　今後、概ね20年間（必要に応じて見直しを行う）

洪水、津波、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する目標

○河川工事においては、近年被害の大きかった平成16年6月及び10月における時間50mm規模の降雨による洪水を安全に流し得る整備とする。
○堤防や護岸等の河川管理施設において、常に所定の機能が保たれるよう適正な維持管理に努める。
○整備目標を上回る洪水発生時や整備途中段階で施設能力を上回る洪水が発生した場合において、できる限り被害が軽減されるよう、総合的な被害軽減対策について、関係機関、地域住民と連携し、地域の防災力向上に務める。
○津波対策に関しては、「計画津波」に対しては、水門等の施設整備により津波災害を防御する。「最大クラスの津波」に対しては、住民等の生命を守ることを最優先とし、焼津市との連携により減災を目指す。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

○大井川との綿密なかかわりのうえに河川利用が成り立っていることに注視→適正な水利用が行われ、現況の流水昨日が維持されるよう、地域住民や関係機関との連携を図る。
○農業用取水施設→利水者と連携して治水と利水の両面の機能を適切に保持する。
○地域住民や関係機関などとの連携により、地域の求める用途に応じた多面的な水辺空間作りに努める。

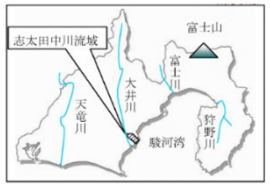
河川環境の整備と保全に関する目標

○水質やごみ問題の共通認識を足がかりとして、河川愛護の意識が流域全体で高まるように焼津市と連携し、地域住民と一体となった取組を促進するように努める。
○大井川用水と湧水に依存していることを踏まえ、地域住民や関係機関との連携により、河川に関わる良好な水環境の保全に努める。

地域との関わりに関する目標

○地元有志や地域団体などによる川づくりに関する諸活動や川を舞台とした防災教育や環境教育などの教育活動への支援・協力を推進する。
○焼津市のまちづくりと密接な連携や調整を図りつつ、地域住民や関係機関との協働による河川整備を推進する。
○地域防災力の向上や良好な地域のネットワーク、コミュニティの強化に努める。

流域の概要



流域面積	約14㎢
幹線流路延長	約5.6km（放水路を含むと約6.1km）
関係市（人口）	焼津市（約14万人） 藤枝市（約14万人）

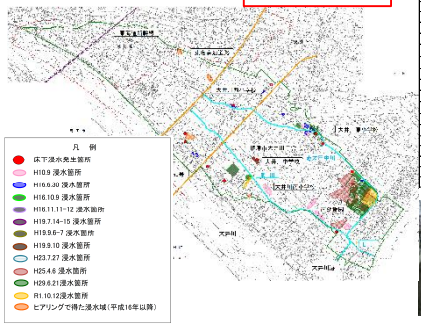
治水に関する現状と課題

【現状と課題】

○放水路部を除くと、現況流下能力は全体的に低く、年超過確率1/2規模の降雨による流出量にも満たない。
○二次支川や小水路の氾濫、低平地部の排水不良等による内水被害が発生している。
○下流部には築堤区間があることから、ひとたび氾濫、堤防が決壊すれば社会的、経済的に甚大な被害を引き起こす恐れがある。
○津波に関しては、「レベル1の津波」は河川内を0.7km以上遡上し、沿岸部で最大約7haの浸水が想定されている。また、「レベル2の津波」では、河川及び海岸堤防を越流し、沿岸部で最大約170ha以上が浸水すると想定されている。

○志太田中川・泉川の流下能力の向上はもとより、準用河川等の管理者である市と連携し、各主体が実施する対策が有効に機能するよう調整を図って、治水対策を進めていく必要がある。
○水田が多く高ろ等、保水・遊水能力が高い地域であることから、今後も適切な土地利用が図られるよう関係機関に働きかけていく。
○流域全体で治水安全度の向上に取り組まなければならない。
○堤防が洪水に対して常に一定の機能を保持するよう適切な維持管理に努めていく必要がある。
○浸水被害の軽減に向けては、河川改修などのハード対策に加え、地域防災力の向上が不可欠である。
○堤水門には大井川用水の流入の一時的な制限や取水施設のゲート開閉、堰の倒伏などの適正な管理と運用が図られるよう利水者への指導を行うことが必要である。
○市が作成する洪水ハザードマップの周知に加え、雨量・水位情報の充実等、地域防災力の向上のため、市をはじめとする関係機関や団体との一層の連携を図っていく必要がある。
○海岸・港湾における津波防御と一体となって津波対策施設を整備するとともに、ハード・ソフト対策を総合的に組み合わせた津波防災を推進する必要がある。

近年の浸水被害発生状況



発生年月日	気象要因	被害実態（棟） 床下浸水	床上浸水
昭和 55 年 6 月 1 日～8 月 6 日	梅雨	10	0
昭和 57 年 9 月	台風 18 号	770	40
平成元年 8 月 24 日～29 日	梅雨、台風 14 号	1	0
平成 2 年 6 月 9 日	梅雨（梅雨）落雷	3	0
平成 2 年 9 月 24 日～10 月 1 日	梅雨、台風 20 号	12	0
平成 3 年 9 月 11 日～28 日	台風 17～19 号	0	0
平成 4 年 6 月 7 日～7 月 24 日	梅雨	1	0
平成 4 年 9 月 28 日～10 月 2 日	梅雨	0	0
平成 16 年 6 月 30 日	梅雨	5(3)	0
平成 16 年 10 月 9 日	台風 22 号	5(3)	0
平成 16 年 11 月 11 日～12 日	梅雨	3(1)	0
平成 18 年 9 月	不明	1(1)	0
平成 19 年 9 月	不明	1(1)	0
平成 19 年 9 月 10 日	梅雨	1(1)	0
平成 23 年 7 月 27 日	梅雨	1(1)	0
平成 25 年 4 月 6 日	梅雨	5(3)	0
平成 29 年 6 月 21 日	梅雨	3(3)	0
令和元年 10 月 11 日～12 日	台風 19 号	5(3)	0

※数字は市役所調査値。（）内は市役所調査値。※梅雨は昭和年代の梅雨。
（ ）内は内数で、市土田中川流域内の棟数を示す。

【H29. 6豪雨：宗高地区】

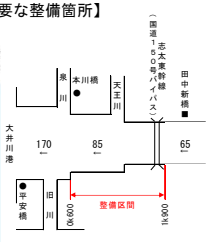
【H16. 6豪雨：宗高地区】

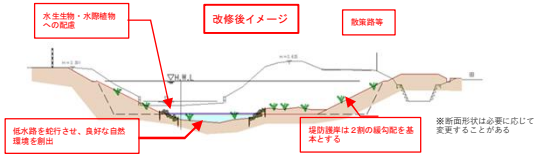
【H16. 10台風22号：吉永地区】

河川整備の実施に関する事項

河川名	区分	区間又は地点	延長	主な整備内容
志太田中川	河川改修	0.6km（泉川合流点）～1.9km（国道150号バイパス上流）	1.3km	引堤、護岸整備、橋梁整備

【河川整備計画の主要な整備箇所】





【その他の河川工事の概要】

○焼津市との連携による総合的な治水対策と一体となった局部的改良
志太田中川、泉川で近年生じている内水被害について、浸水区域ごとに、発生原因と対策について検討を進めるとともに、焼津市における治水対策・内水対策と連携して、必要に応じて局部的改良等を実施する。

【河川の維持】

河川の維持管理に関しては、災害の発生防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、治水機能の確保のほか、河川のもつ多面的機能が十分に発揮されるよう、焼津市などの関係機関や、地域住民と連携を図りながら、河川パトロール等の適切な維持管理に努める。

(1)　堤防及び護岸等の維持管理
(2)　河道内堆積土砂及び植生等の維持管理
(3)　樋門・樋管等の河川工作物の維持管理
(4)　水量・水質の監視等
(5)　河川環境の整備と保全

【その他総合的な取組み】

○整備目標を上回る洪水が発生した場合や整備途上段階で施設能力を上回る洪水が発生した場合や想定を上回る津波や高潮が発生した場合でも、住民自らがリスクを察知し主体的に避難して被害の軽減が図れるよう、平常時、出水時において関係機関や地域住民との連携を強化し、地域の防災力の向上に努める。加えて、越水による決壊までの時間を引き延ばすよう、堤防構造を工夫する危機管理型ハード対策を推進していく。

～総合的な被害軽減対策の取組～

○流域対策・流域連携の推進

○河川情報の提供

～流域との連携、流域における取組への支援に関する事項～

○大規模氾濫減災協議会等による関係機関との連携

○ハザードマップ活用への支援

○地域住民との連携、地域活動への支援

【焼津市水防訓練の様子】

【サイポスレーダー】

【ゴミ除去装置での活動】

河川の利用及び水利用に関する現状と課題

【現状と課題】

○大井川用水の導入以降、大きな渇水被害は発生していない。
○地域住民により堤防上に散策路が整備されたり、地域住民により維持管理されている桜並木などがある。

【大井川用水から分派し志太田中川流域に流入する一番用水】

○今後とも河川の適正な水利用に努める必要がある。
○河川空間の多面的な利用について、地域のニーズや市の計画計画と調整を図っていくことが重要である。

【流域住民により設置された堤防上の遊歩道】

河川環境に関する現状と課題

【現状と課題】

○類型指定はされていないが、近年は概ねA～AA類型程度である。
○ゴミの流出は河川景観を損なうばかりでなく、港湾機能にも影響を与える。
○感潮域では河川と海を行き来する種が多くみられる。
○順流域では川と背後の水路・水田を行き来する種が見られる。
○志太田中川水系は、全川を通じて多様な動植物の生息・生育空間となっている。
○植物は特定外来生物は見られないものの、外来種が全植物種に占める割合は30%と高い。
○山地が無いことから、自流は大井川の伏流水による湧水と大井川用水に依存している。
○志太田中川水系の流況については、現在、水系内において継続的な流量観測が行われていないため流況は不明であるものの、大井川用水や湧水等の影響により平常時の河川流量はかんがい期、非かんがい期ともに豊富である。

○水質改善を含めた水環境の改善について、流域一体となって意識向上を図っていく必要がある。
○河川の上下流及び支派川との連続性を確保することが必要である。
○現在の自然環境について、流域住民がその希少性や重要性を十分に認識し、河川の自然環境を守り、後世に受け継いでいく必要がある。そのため、住民、市民団体、学識者、行政などの様々な主体が治水、利水、環境の調和のとれた河川環境の整備に携わることが求められている。
○大井川からの水の恵が志太田中川流域の農業基盤を支えるだけでなく、河川における動植物の多様な生育・生息空間を支え、地域の水辺環境を形づくり、河川景観を形成している。

【志太田中川水系の魚類】

ウナギ、コイ、ギンブナ、フナ、ヤリタナゴ、タイリクバラタナゴ、オイカワ、アブラハヤ、ウグイ、ウグイ（降海型）、モツゴ、タモロコ、カマツカ、ドジョウ、シマドジョウ、ナマズ、アユ、ミナミメダカ、アユカケ（カマキリ）、ブルーギル、オオクチバス、ボウズハゼ、マハゼ、ヒメハゼ、ヒナハゼ、ゴクラクハゼ、ウロハゼ、ミミズハゼ、シマヨシノボリ、ヨシノボリ、ヌマチチブ、カワアナゴ、カムルチー、ボラ、セズジボラ、スズキ、ヒイラギ、キチヌ、ゴンズイ

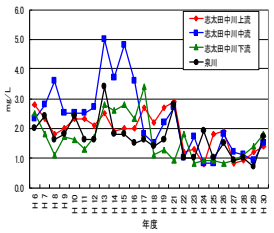
【志太田中川水系の水生植物】

ササバモ、オオカナダモ、ホザキノフサモ、コウホネ、ナガエミクリ、サンカクイ、エビモ、ヤナギモ、アオウキクサ、コカナダモ

【アユカケ】

【ナガエミクリ】

【志太田中川水系ＢＯＤの経年変化】



地域との関わり関する現状と課題

【現状と課題】

○住民参加による堤防天端の遊歩道整備や植栽、除草等、住民活動と一体となった河川環境の向上につながる行動が行われている。
○ゴミ回収装置で河川美化協力会の方が大井川港へ流入するゴミを回収している。
○住民アンケートでは今後改修する場合、配慮すべき必要があると思うものとして、「魚や水生生物の棲める環境」、「水をきれいにすること」、「川沿いで散策などが楽しめること」を望む意見が多い。

○地域住民の活動やゴミ回収装置での作業などを広く地域に周知し、啓発するとともに、引き続き支援を行っていく必要がある。
○身近な河川に対する地域住民の思いが良好な地域コミュニティの醸成に活かされ、自発的な地域づくりへの取り組みが今後も地域で受け継がれ育まれていくよう、地域との連携のあり方について引き続き研究していく必要がある。